

OPEN 9:00-17:00
公開期間 4月-11月(無休)

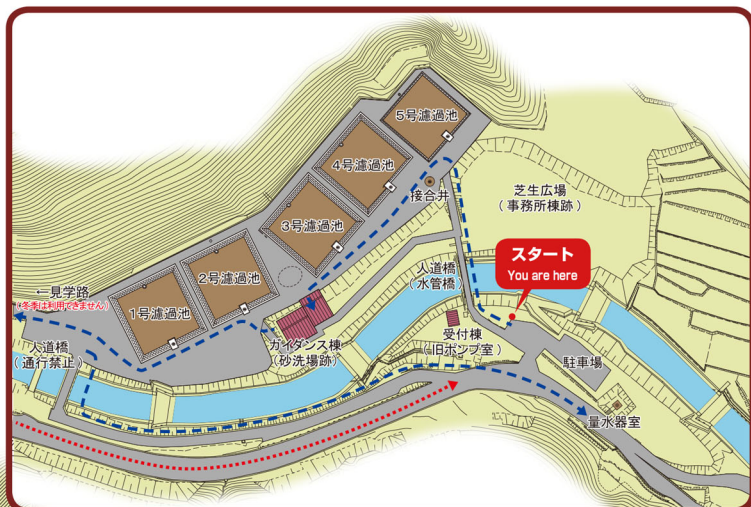
ありがとう！施設復興100周年

国指定重要文化財 旧美歎水源地水道施設
National important cultural properties; Old-Mitani headwaters reservoir & waterworks facility



鳥取市水道局のマーク

Tottori Waterの頭文字「W」「T」を組み合わせたもので、旧美歎水源地の建設を機にデザインされました(写真は門柱)。

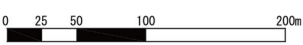


←--- 濾過施設見学コース (所要時間約60分)
←..... 堰堤・貯水池見学コース (所要時間約40分)



ベンチュリメーター

送水量を記録するメーターが、今も量水器室内に残っています。記録紙には、水源地が機能停止した昭和53年3月27日の給水量が記されています。



旧美歎水源地水道施設は鳥取市が1915年(大正4)に、山陰地方で最初に建設(全国では29番目)した近代水道施設です。水源ができるまで、市街地の人々の多くは、鳥取城の外堀にあたる袋川の水を飲んでいました。しかし、袋川の水質は衛生的に決して良い状態ではなく、疫病などの心配もありました。このため、1912年(明治45)に、当時の鳥取市議会は美歎地区に水源地をつくることを決定。総工費51万円(当時の市の年間予算の5倍に相当)を投じることで、市民待望の安全で安心な飲料水が供給されることになりました。

日本人で初めて上下水道を設計した三田善太郎氏指導のもと1913年(大正2)に起工し、2年の歳月をかけて純国産型の近代水道施設を完成させます。ところが、1918年(大正7)9月に発生した台風によりダムが決壊。濾過施設を含め下流部の集落を流失する悲劇が起こります。鳥取市はこの災害を教訓に、より強固なダムとするため、日本初のコンクリートダムの建設に従事した佐野藤次郎氏に設計を依頼。災害から4年後の1922年(大正11)に給水を再開しました。その後、機能拡張に伴い1929年(昭和4)に濾過池を増設し、1978年(昭和53)に休止す

るまでの60年間、鳥取市民の飲料水として用いられたほか、歩兵第四〇連隊(陸軍)施設への供給や山陰本線を走る蒸気機関車に給水するなど、山陰地方の発展に貢献しました。

旧美歎水源地水道施設には、大正時代の水道システムのほぼすべてが当時のままの状態で見学することから、2007年(平成19)6月に国の重要文化財に指定されました。その後、10年に及ぶ文化財保存修理と施設の活用整備を行い、2018年(平成30)4月より公開を開始。洗砂場を外観復元したガイダンス施設には、当時の図面等貴重な資料を展示しています。また、ダム湖を1周(約2km)する見学路は、豊かな水源を育むために植樹された水源涵養林と自然林が混交しており、森林浴に最適です。やわらかな日差しの中、見学路に点在する文化財を眺めながら、ダム湖へと流れる川のせせらぎや鳥の声に耳を傾け、季節の草花の香りを胸いっぱい味わうことができます。動物図鑑や植物図鑑を持って散策するのも楽しみ方のひとつです。

旧美歎水源地水道施設は、豊かな自然とふれあうなかで、鳥取市の歴史を学ぶことができる施設です。皆様のご来場をお待ちしています。
鳥取市教育委員会